

9/30 朝日

いつまで続く東電の無責任体質

非常勤講師、

(神奈川県 73)

「東電、テロ対策不備を放置」
 (23日本紙)で、東京電力柏崎刈羽
 原発7号機が、外部からの侵入検知
 設備の故障を代替措置で済ませ放置
 していた、と報じられた。「約10カ
 所で30日以上」というずさんさだ。
 何より高度な安全性が求められる原
 発で、ということを考えて、あり
 得ない事態だと怒りさえ覚える。
 外部からの不正入室を検知する設
 備の不具合を、安易に代替措置で済
 ませようとしたことは、いかに東電
 が原発の安全性を軽視しているか、
 ということにはかならない。

「安全神話」を振りまいて推進さ
 れた原発は、東日本大震災によつて
 もろくも崩れ去り、絶対的な「安
 全」などないことを私たち国民に教
 訓として残してくれた。震災から10
 年の時の経過が、慎重を重ねて対応
 しても、し過ぎる「ことはない」とい
 う教訓を忘れさせてしまったというこ
 となのだろうか。
 今回の侵入検知設備の不備で「万
 が一」のことがあっても、東電は
 「想定外」で済ますのだろうか。先
 日は放射性廃棄物処分の海外委託と
 いう政府の方針転換が明らかになっ
 た。無責任な姿勢は、原発に関する
 いたるところで見え隠れする。